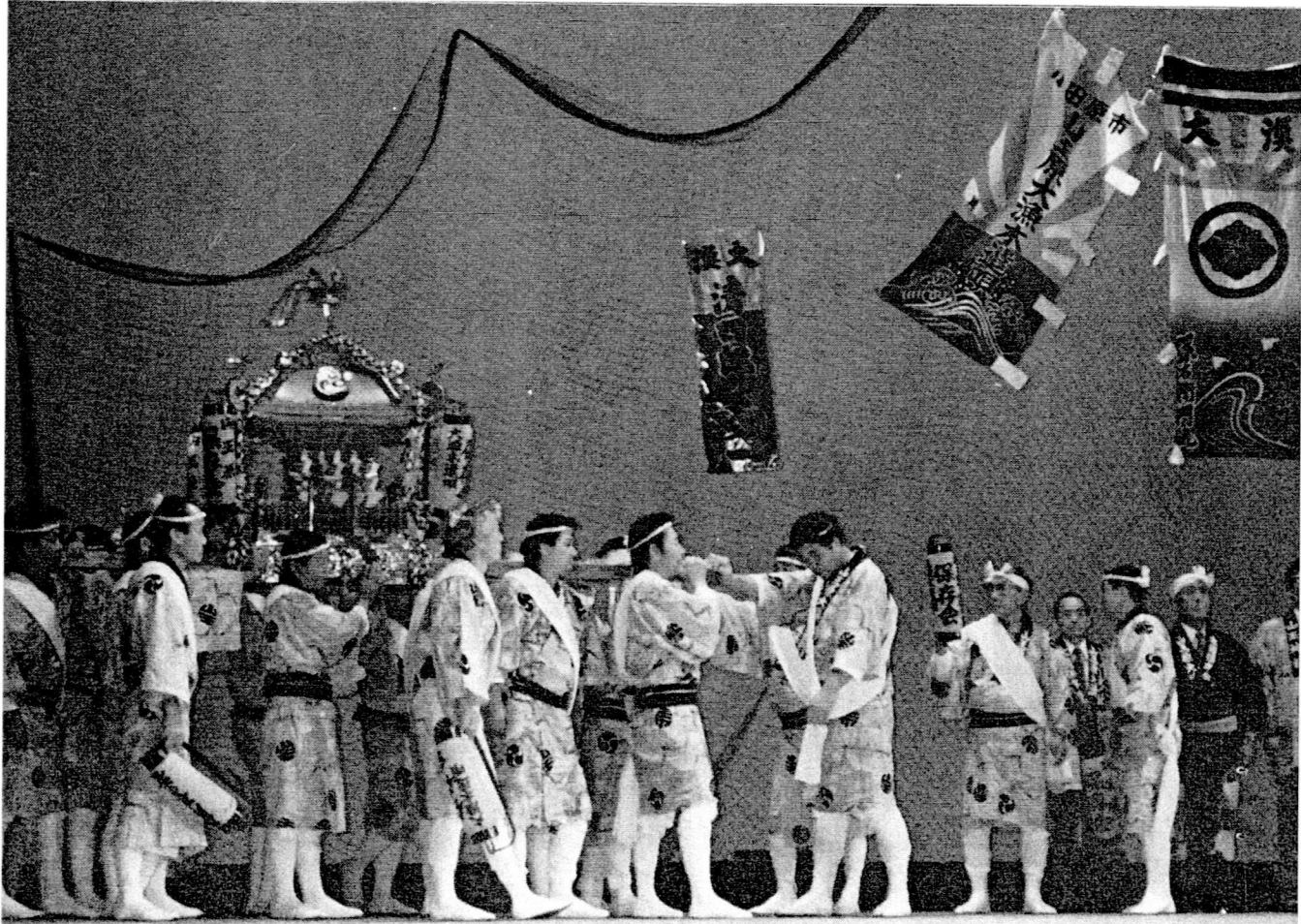


かながわの 民俗芸能

第 53 号



小田原市 山王原 大漁木遣唄保存会

神奈川県民俗芸能保存協会



目次

特集 第二十七回神奈川県民俗芸能大会

西相模の民俗芸能

—小田原市内の民俗芸能を中心にして—

法政大学経済学部講師 西海 賢二……………3

小田原ちようちん踊り保存会について

小田原ちようちん踊り保存会長 江ヶ崎 美千香……………5

民俗芸能の未来をみつめて

長井町館屋踊り保存会長 池永 幸吉……………6

第二十七回神奈川県民俗芸能大会参加に想う

宮前うすひき唄 宮前うすひき唄保存会員 目代 正男……………7

民俗芸能大会演目……………8

民俗芸能大会アルバム……………8

国および県の新指定等無形民俗文化財の紹介……………12

善部妙蓮寺曲題目保存会について……………14

善部妙蓮寺曲題目保存会長 今井 政幸……………14

秘儀と伝承

川崎山王まつりの宮座式……………14

稲毛神社禰宜 市川 緋佐磨……………14

内山剣舞おどり保存会について

内山剣舞おどり保存会長 箭子 清……………15

ニュース・伝言板……………16

特集

第二十七回神奈川県民俗芸能大会

西相模の民俗芸能

—小田原市内の民俗芸能を中心にして—

西海 賢二

徴である。

また、その伝承には、「古老は戦争中、防空壕の中で練習したものだ（小沢好藏氏談）」といわれるくらい、文化的にも意識が高く、また、経済的条件を必要としていたのである。

下中座（現座長岸忠義氏）の人形芝居の歴史は江戸時代中期以降のものであるが、たびたびの奢侈禁止令（天保年間）など一時は中絶した時

とで、通称三人遣と呼ばれ、明らかに大阪の文楽（記録では享保十九年（一七三四）竹本座で創始されたという）の系統にあることは認められるものの、文楽より少し頭が小さく鉄砲さしという独特の操作で、とにかく頭の目と見る人の視線とを合わせることに力点が置かれる特徴がある。江戸時代に作成された人形の頭（五十五個）衣裳（六十点）も現在に伝えられている。

第二十七回神奈川県民俗芸能大会および小田原市制施行五〇周年記念大会は平成二年十月二十一日（日）に小田原市民会館にて開催された。今回は、小田原市六団体、南足柄市一団体、横浜市一団体、川崎市一団体、横須賀市一団体、足柄上郡山北町一団体の計十一団体の民俗芸能が披露された。

このうち小田原市内六団体の民俗芸能の概略を紹介してみよう。

相模人形芝居下中座（昭和五十五年国指定重要無形民俗文化財）

相模人形芝居は、市内小竹地区に伝えられる下中座・厚木市の長谷座・

林座・南足柄市の足柄座・平塚市の前鳥座の人形芝居の総称をいう。下中座は、もと足柄下郡下中村の小竹地区で行われていたため、別名小竹の人形芝居と呼ばれ、市内に残る唯一の人形芝居として、市内はもとより隣りの中郡二宮町、上郡中井町の人達にも親しまれ、人気があった。

相模人形芝居は上方を中心とした文楽とも深い関係があり、芸術性も高く、技術の修得、頭の保存などには長い時間とかなり経済性を必要とし、民俗芸能、信仰行事とともに、信仰と娯楽が渾然としているのが特

徴である。また、その伝承には、「古老は戦争中、防空壕の中で練習したものだ（小沢好藏氏談）」といわれるくらい、文化的にも意識が高く、また、経済的条件を必要としていたのである。

とで、通称三人遣と呼ばれ、明らかに大阪の文楽（記録では享保十九年（一七三四）竹本座で創始されたという）の系統にあることは認められるものの、文楽より少し頭が小さく鉄砲さしという独特の操作で、とにかく頭の目と見る人の視線とを合わせることに力点が置かれる特徴がある。江戸時代に作成された人形の頭（五十五個）衣裳（六十点）も現在に伝えられている。

寿獅子舞（曾我別所寿獅子舞）

曾我という言葉の響きに連想されるものは梅であったり、曾我兄弟であったりするが、毎年二月の梅まつり開催中、毎週末に梅林で演ぜられることもあって、寿獅子舞を知っている人も最近が増えてきたようである。しかし、この獅子舞が、いつごろ生まれたものか明らかではない。

現在、確認される獅子頭は最近のものだが、氏神の高砂神社に伝わる尉姫の木彫の御神体および猿田彦の木像（これらの人形が着た着物を一週間ほど借りて神酒、御供をする）と子室に恵まれるといわれている）などは江戸末期のものであるから、直接寿獅子舞のものではないが、いずれにせよ近代になってのものである。

舞は小田原の久野に住んでいた舞太夫から伝授されたというが、これは後北条氏以来、西相模の民俗芸能や宗教（厄神信仰など）の指導的立場にあった旧萩窪と旧古新宿にいた音曲舞太夫と神事舞太夫天十郎らにかかわるものであるが、悪魔を払い、豊年の祝舞として高砂神社などに奉納されたものである。

明治から昭和初年にかけては、山王地区では、この唄を山王神社の祭礼で歌うようになり、有志により「山王神社大漁木遣保存会」を結成し、その後、昭和五十五年八月には、現在の山王原大漁木遣唄保存会

の獅子舞、賑やかであったというが昭和十年代は自然消滅の状況となり、獅子と獅子頭だけが残ったという。

戦後、昭和二十二年獅子舞の名人「ちゃら平」氏と歌舞伎役者「桜川梅丸」師匠らの指導をうけ、新作の所作を加えて復活したのが現在の寿獅子舞である。

『屋台』、『聖天神田丸』、『鎌倉仕丁目』小田原獅子多古保存会。

祭獅子は日本の祭礼の象徴ともいわれている。神奈川県内にも現在約三百ヶ所以上が確認されるが、市内多古の白山神社に伝わる小田原獅子は、江戸葛西獅子から発生したもので関東祭り獅子に属するものとして知られている。多古の小田原獅子が今日、公民館、子供会、氏子達を中心に隆盛をみているのは、やはり保存会による徹底した指導がこうした様相を呈しているのだから。市内にはこのほか旧橋地区にも江戸葛西獅子の流れをくむものが確認される。舞台踊り 小田原ちようちん踊り 保存会。

小田原提灯の東海道中に果たしてきた役割はことのほか大であると

もに、童謡「お猿のかごや」で広範に知れわたった「小田原提灯」その歴史的価値を再確認する目的と、提灯の普及のために、これを手に持って舞う踊りが考案されたのは昭和五十一年のことで、歴史は浅いが、小田原北条五代祭り（五月三日～五日、昭和六十一年まで「お城まつり」）七月下旬城下町夏祭り、大松明と線香祭り（八月十二日、御幸の浜海岸）梅まつりなどの祭礼に積極的に参加して徐々に地区に広め現在会員数二百名近くとなっている。

鹿島踊り 根府川鹿島踊り保存会。

根府川の山神社で七月の第三日曜日に奉納される踊りである。根府川は隣町真鶴とともに、江戸時代以降石材の産地として、石材運搬などに従事する人が多く、こうしたことから海、船、石、みかんなどにかかわる鹿島神信仰が定着したといわれ、鹿島とのかかわりでミロク信仰にかかわるミロク唄（鹿島唄）なども確認される。基本的には五行五列の二十五人が行列及び円形をつくり中心の鉦・太鼓・黄金の柄杓らの指図によって舞われるのが特徴である。

この鹿島踊りは、相模湾の西岸、

市内石橋、米神、根府川、江の浦、足柄下郡真鶴町貴船神社、同郡湯河原町福浦、吉浜をはじめ静岡県の東伊豆町方面まで二十ヶ所をこえる地区で行われており、茨城県の鹿島神社では十九世紀初頭の文政年間にはすでに絶えてしまった行事であるから、神奈川県、静岡県、静岡県の海岸部に集中的に確認されるのは注目される。

大漁木遣唄 山王原大漁木遣唄保存会。

大漁木遣唄は相模湾一帯の漁民、とくに西湘地区の前羽、小八幡、酒匂（山王原含む）早川などで古くから歌われていた。

板子一枚下は地獄という漁業に従事する時の仕事唄と、婚礼及び山王神社祭礼時の儀式唄を兼有する点では、全国的にも珍しいものである。

昭和二十年代、三十年代前半までは小八幡、早川などでは一網に鱈が数千本も入るほど活況を呈していたが、昭和四十一年の西湘バイパス工事により、西湘海岸一帯の漁業は衰退の一途を辿り、漁師の多くは転業を余儀なくされて、この木遣唄も歌われることがほとんどなくなった。

小田原ちようちん踊り保存会について

江ヶ崎 美千香

平成二年十月二十一日、小田原市民会館大ホールを会場として第二十七回神奈川県民俗芸能大会が開催され、十一団体の参加をみました。出演依頼がありました際、私どもは神奈川県民俗芸能保存協会に加入して初めての参加であり、パレードと同等の多人数による舞台踊りも余り経験がございませんので、踊りが混乱するのではないかと一抹の不安を覚えました。

他の出演団体の皆さんが披露する芸能は、歴史的にも由緒のある伝統芸能ばかりですから私どもが気後れするものも無理ではありません。

平成二年十月二十一日、小田原市民会館大ホールを会場として第二十七回神奈川県民俗芸能大会が開催され、十一団体の参加をみました。出演依頼がありました際、私どもは神奈川県民俗芸能保存協会に加入して初めての参加であり、パレードと同等の多人数による舞台踊りも余り経験がございませんので、踊りが混乱するのではないかと一抹の不安を覚えました。

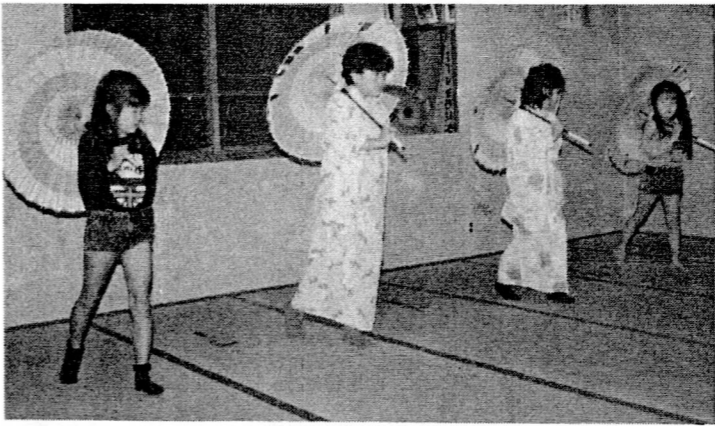
県内の郷土芸能が大勢の皆さんに深い感銘を与え、支持されていることを思い、特段の精進と後継者育成のために努力することを深く心に誓いながら会場を後にしました。最後に、会場準備から終演まで多くのご協力を頂いた関係者の皆さんに深甚なる感謝を申し上げますとともに神奈川県民俗芸能保存協会の一層のご繁栄を遥か西湘の地よりお祈り申し上げます。

私ども小田原ちようちん踊り保存会は昭和五十一年に発足して今年で十五周年を迎える若い団体でございます。会員は現在百八十余名でございますが、会員が小田原市の内外に散在していますので地区を十ブロックに分け、毎月一回指導員を派遣してブロック毎に踊りの練習に精進してお

（小田原ちようちん踊り 保存会長）

民俗芸能の未来をみつめて

池 永 幸 吉



▶ 館屋踊りの練習

神奈川県民俗芸能大会の出演要請を受けたのは平成二年八月半ばの頃であった。横須賀市の民俗芸能としては、はなはだ幼稚な我が長井の館屋踊りは総員三十三名踊子、唄手、裏方とすべて素人の集りですが、横須賀市の数ある民俗芸能の中から我が長井の館屋踊りが選ばれた事に対して私達は非常な責任感を感じました。

まず、会員全員を集めて出演の責任と誇りを理解させ、出演についての練習を週三回、夜七時より八時まで行い当日真近になっては毎夜の練習に持込みました。子供達も一生懸命よくついて来てくれ十月二十一日の当日を迎えました。朝七時に長井を出発九時四十分、無事目的地小田原に到着、予定時刻より約一時間も早く到着したので子供達の今回出演に対する練習に報いる意味も含めて、天下の名城小田原

城を見学させ全員一時の憩いを取る事が出来た事はすばらしい親睦であった事と思います。十二時間演じたい事、各保存会の方達も準備おこたりなく、我が長井の館屋踊りは最後から二番目でしたので出演準備も和気あいあいの内にとどこおりなく済ませ、二時間余りの余裕ができたので出演団体の芸能を見学しました。

我が長井がまず感じた事は観客席が満員であった事と観客の芸能に対する理解の深さでも申しましようか、すべての出演者に対して惜しみなき拍手を送っていた事に感激したことです。出演団体は地区ごとに出し物が異っており、県下における歴史の深さをしみじみと感じさせられました。子供達は無言で出番を待っていました。子供達の顔にも横須賀市を代表と言う事で緊張と責任感がみなぎっていました。たまたま控室の中で他地区の保存会の青年達から、「おねえちゃん頑張って。」との声が入団して一年たらずの幼稚園児の踊子美江ちゃんがニコリ笑ってコックリをした事がとても可愛らしく、踊子達の緊張をどればどほぐしてくれた事でした。出演時刻も刻一刻と迫り、次々と集合される各地区の保存会のメンバー、(いず

第二十七回 神奈川県民俗芸能大会参加に想う

宮前うすひき唄

目代 正 男

錦秋の佳き日、神奈川県民俗芸能大会は小田原市で極めて盛大に催され、私共宮前のうすひき唄保存会が参加の栄を得、光栄感と喜びの念を禁じ得ず、今後に向けて、意欲新たに致すところです。

各地に伝承される立派な民俗芸能に、日本人の歴史と風俗感を充分味わう事ができ、感激の一日に終始満足感に浸る大会参加となりました。

一部感想としては、プログラムに載っている解説を、幕間を利用して観客に説明する事を統一実施する事で、総合的な構成、運営の効果高揚が得られると素直に感じ、希望致します。

今回私たちが保存会の出演で、惜むべきは、出演人数の不足による低調ということが一点、バックに、当時の作業場の雰囲気のである景観を加える事が出来たら、観客の理解を一層深められたのではなかったかと一部反省の感がありました。

保存会の現況としては、故佐々木

治郎吉氏の意志を継承する光昭会長のもとで、稽古に励んでおりますが、後継者不足が唯一の悩みであり、今後、若い男女が、歌心を素直に理解し、過ぎし昔の農村の素朴な心を懐想のうえ若者達が関心の目を開き、参加出来るような雰囲気作りの策を

労し、交流が清き芽生えの糧となる事を念じ、もっぱら研鑽を積んでの楽しい練習の時を過しております。

うすひき作業は、石臼で穀類を粉にして、食に供した作業のことを呼び、農家の嫁、娘さん中心の夜なべ仕事で、色々な想いを胸に、村の若衆が手伝いと称して娘さん目当てに遊びがてら手伝う、これが若者の社交場となっていたようであります。

「一つあげます臼神様に」と始まり、その都度即席の唄文と掛合いで、「かわいいあの娘になぞかけられてとかずばなるまいしゅすの帯」など口ずさみながら終文と致します。(宮前うすひき唄保存会員)

うすひき唄

宮前うすひき唄保存会

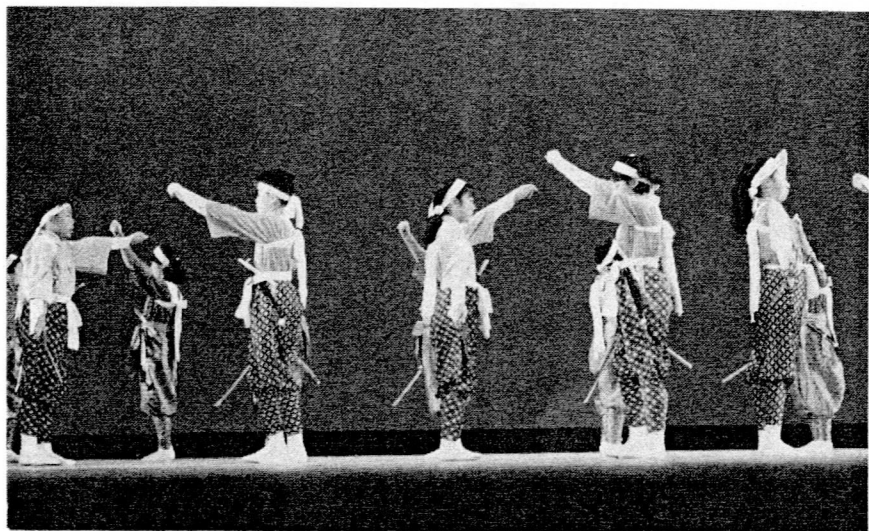
- 一、 アンダコーラセー
一つあげます キタサうす神様え アコーオリヤセー
あたりさわりのないように ナンダコーラセー
- 二、 ハアアアー
あたりさわりが キタサ 何あるものか
あたしとあなたの仲じゃもの
- 三、 ハアアアー
馳けつきましたよ キタサ ようようのことで
皆さんの 顔見てほっとした
- 四、 ハアアアー
よくも来なったよ キタサ 山坂こえて
露やほこりも いとわずに
- 五、 ハアアアー
露やほこりを キタサ いとよなことじゃ
かわいい あの娘にや添われぬ
- 六、 ハアアアー
かわいいあの娘に キタサ なぞかけられて
とかずばなるまい しゅすの帯
- 七、 ハアアアー
連れて逃げるから キタサ 髪結いなおせ
島田じゃ 世間がわたれない
- 八、 ハアアアー
うすをひくときゃ キタサ いねむりばかり
団子食べるときゃ 皿まなこ
- 九、 ハアアアー
うすをひくときゃ キタサ 手と手をにぎり
うすが終れば 肌と肌
- 十、 ハアアアー
肌と肌とは キタサ 及ばぬものよ
お逢いするのが せきのやま
- 十一、 ハアアアー
こぼれ松葉を キタサ あわれみやしやんせ
枯れて落ちてても 二人連れ
- 十二、 ハアアアー
うすはこれきり キタサ 此の台かぎり
お逢いするのは 明日の晩

第二十七回 神奈川県民俗芸能大会
小田原市制施行五十周年記念大会 演目

第一部

第二部

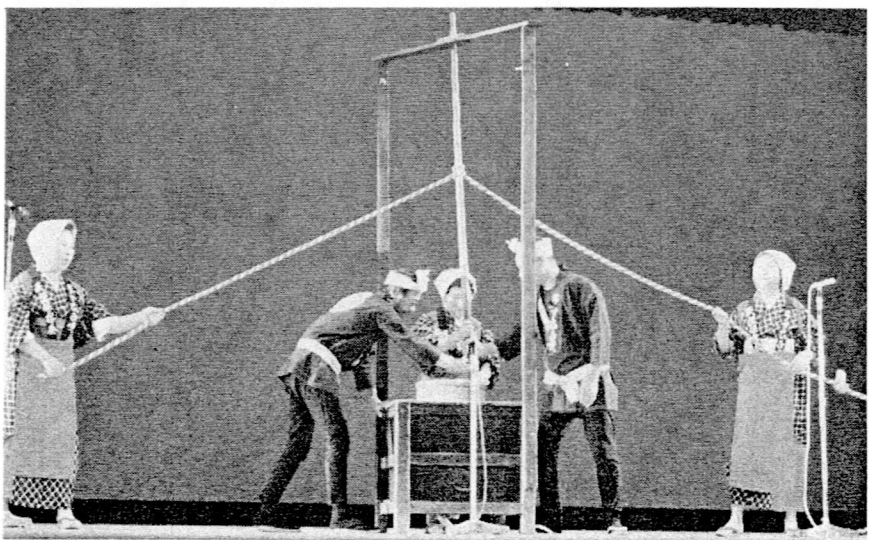
1 三番叟 相模人形芝居下中座	小田原市	7 『屋台』・『聖天神田丸』・ 『鎌倉仕丁目』 小田原囃子多古保存会	小田原市
2 寿獅子舞 曾我別所寿獅子舞保存会	小田原市	8 舞台踊り 小田原ちょうちん踊り保存会	小田原市
3 『忠臣蔵』・『曾我の夜討ち』 内山剣舞おどり保存会	南足柄市	9 鹿島踊り 根府川鹿島踊り保存会	小田原市
4 野毛山節 野毛山節保存会	横浜市	10 『ねんねこ踊り』 『新川踊り』 長井町鮎屋踊り保存会	横須賀市
5 宮前うすひき唄 宮前うすひき唄保存会	川崎市	11 大漁木遣唄 小田原市山王原大漁木遣唄保存会	小田原市
6 四節踊り 山北町お峯入り保存会 (休憩)	山北町		



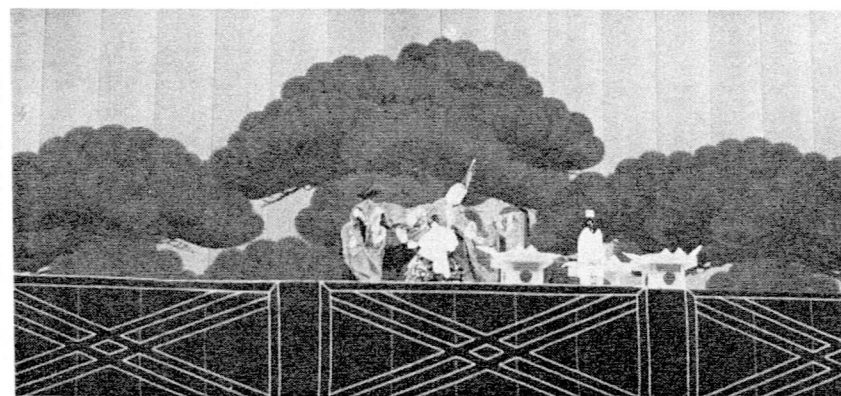
▶ 内山剣舞おどり保存会



▶ 野毛山節保存会



▶ 宮前うすひき唄保存会



▶ 相模人形芝居下中座



▶ 曾我別所寿獅子舞保存会

民俗芸能大会アルバム

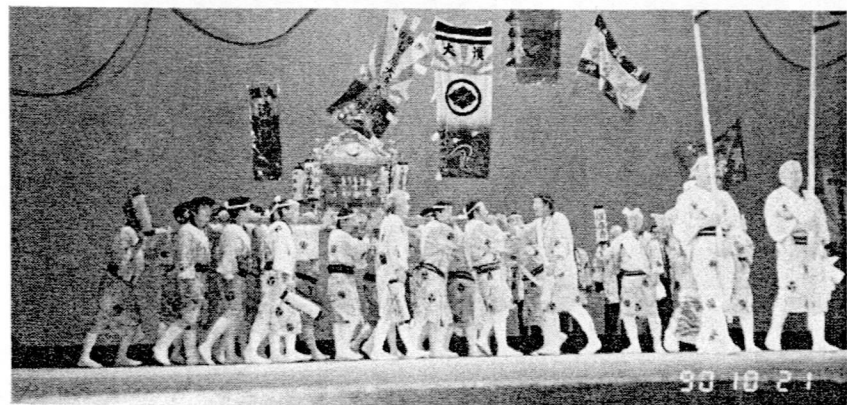
▶ 小田原囃子多古保存会



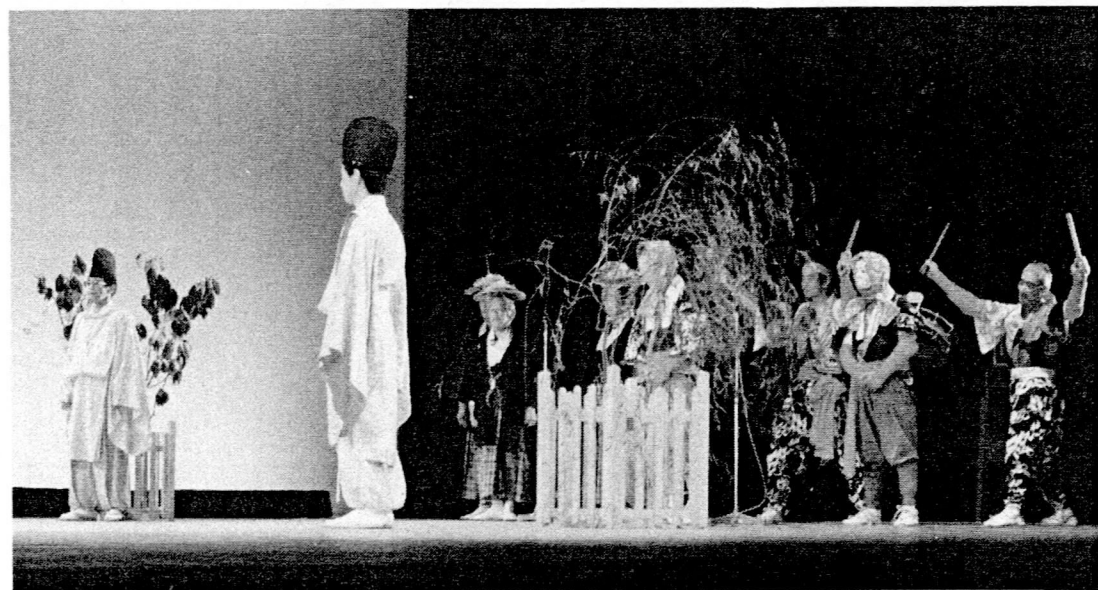
◀ 長井町鮎屋踊り保存会 ▶



▶ 根府川鹿島踊り保存会



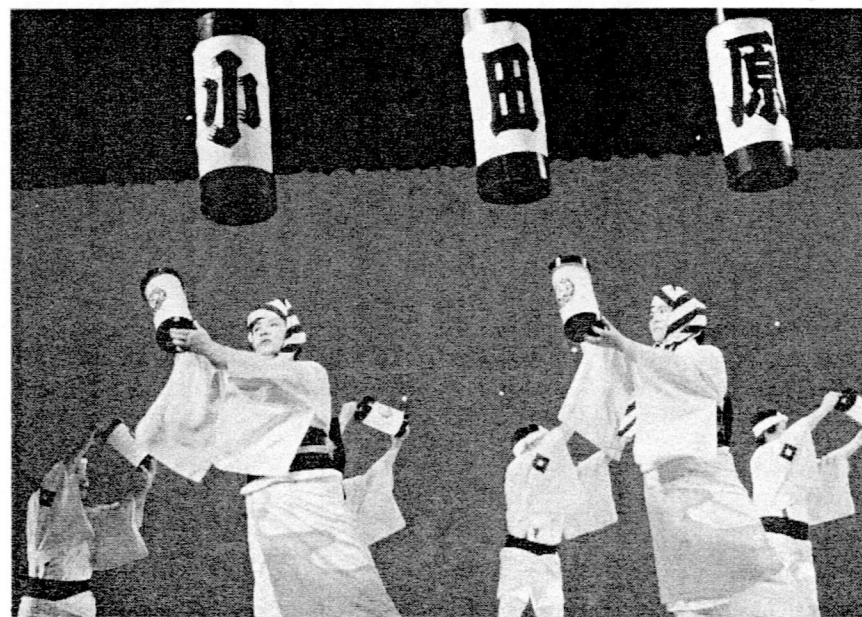
◀ 小田原市山王原大漁
木遣唄保存会



▲ 山北町お峯入り保存会



▶ 小田原ちようちん踊り保存会



国および県の新指定等 無形民俗文化財の紹介

神奈川県内では、平成3年1月25日、「相模の大凧」が国の選択重要無形民俗文化財に、平成3年2月8日付で県指定無形民俗文化財に「善部妙蓮寺の曲題目」、県選択無形民俗文化財に「川崎山王祭りの宮座式」、「内山の忠臣蔵踊り及び曾我の夜討ち踊り」が新たに選ばれました。それぞれの概要は次のとおりです。

○国選択重要無形民俗文化財
相模の大凧
(相模原市・座間市)

江戸時代の後期(一八三〇年ごろ)から始まったといわれる伝統行事。現在のような大凧になったのは明治の半ばといわれている。相模川沿いの四地区で会場を持ち回り、五月のゴールデンウィークに開催している。

○県指定無形民俗文化財

善部妙蓮寺の曲題目

横浜市旭区善部町

善部妙蓮寺曲題目保存会

十月の第三日曜日に善部妙蓮寺の御会式(日蓮宗で、宗祖の忌日に営む法会)行事の一つとして行なわれているものである。本堂に雛段を二段もつけ、そこに揃いの着物を着た十数名の男女の稚児が雛段わきの畳の上に地取と呼ぶ長老(男子)が座る。長老の歌題目にあわせて稚児が二本の綾のバチを持ち、紙製の小太鼓を打ち、綾取りをする。この行事は安政年間に竜口寺(藤沢市片瀬)の伝兵衛という人が、この地に伝えたとい



◀ 善部妙蓮寺の曲題目

われている。綾取りを寺院の御会式の時に演ずるのは全国的にも珍しく、貴重である。

○県選択無形民俗文化財

川崎山王祭りの宮座式

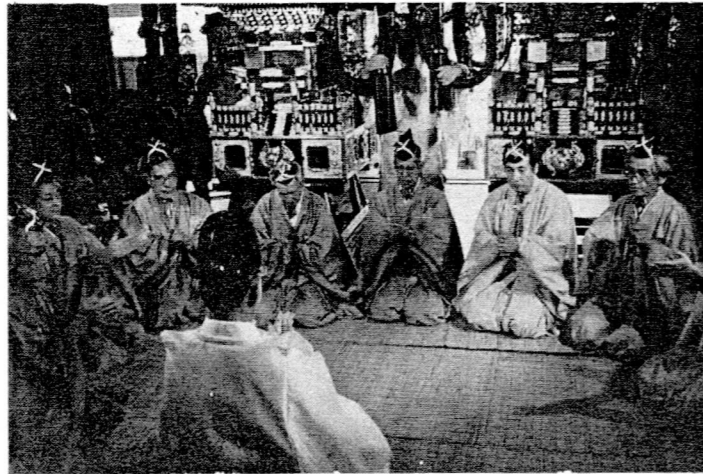
川崎市川崎区宮本町

稲毛神社氏子総代会

毎年、川崎稲毛神社の山王祭りで行われている宮座式は、未だ専任の神職が配置されなかったころに確立された神事の執行方法であり、関東でも極めて珍しいもので

ある。

この宮座は、専任の神職を持たない神社において特定の氏子が代々世襲でその祭儀の執行に参画することをいい、特に近畿地方に著しい。神奈川県下に宮座式と呼ばれる例はほかになく、大変貴重である。



▲ 川崎山王祭りの宮座式

○県選択無形民俗文化財

内山の「忠臣蔵踊り」及び「曾我の夜討ち踊り」

南足柄市内山

内山剣舞おどり保存会

この踊りは、江戸末期頃に始まり、その後歌舞伎の影響を受け、現在のスタイルになったのは明治



▲ 内山の「忠臣蔵踊り」及び「曾我の夜討ち踊り」

初期頃と思われる。

二つの踊りとも、語りものに合わせて二人一組になって踊るところに特徴がある。語りは、最初にほめ言葉が入っているのも特徴的で、当時の流行を今に伝える数少ない芸能であり、希少価値がある。

善部妙蓮寺曲題目

保存会について

今井政幸

秘儀と伝承

川崎山王まつりの宮座式

市川 緋佐磨

私がまだ小さい頃、嘉永生まれの祖父に抱かれて、曲を教えてやろうと手を取り、サアハイナアと唄ってくれた事を思い出します。昔は誰もが口ずさんだのではないのでしょうか。私達の町は昭和の初期まで僅か三十戸の小さな農村で、しかも全戸が一つ寺の檀徒であるため、御会式ともなれば親戚や近隣部落の老若男女が参詣に訪れ、大変賑わったものでした。

戦前は題目講中が中心となり伝承されてきた曲題目も戦争のため中断されましたが、戦後まもなくできた青年会に呼びかけ、先輩師匠を頼んで、練習を始めました。それから子供を募り、稽古を積んで毎年の御会式に演ずるようになりました。

そして三年毎に燭台形の餅柱を積んで本御会式とし、総代世話人の家を宿に、万灯行列が行なわれるようになりまし。

昭和三十七年には全曲目を一組五枚のソノシートに録音する事ができ

ました。この中には当時講元の和田房次郎氏や和田義国氏等明治生まれの人の声がそのまま残されていて貴重な資料となっています。昭和五十二年保存会を結成し大勢の方の参加をお願いし、翌五十三年無形民俗文化財として県の選択を受け、喜びと同時にその責任の重さを感じました。その後記録映画やビデオにより保存に努力してまいりました。そしてこの度県指定の榮譽に浴し感無量です。関係者各位に謝意を表わすと共に、この保存伝承には一段と努力しなければならぬと決意する次第です。

(善部妙蓮寺曲題目保存会長)

全国の唯一の芸能として、また百三

このたび、稲毛神社「川崎山王まつりの宮座式」が神奈川県無形民俗文化財として選択されました。まことに名譽なことと氏子崇敬者挙げて喜んでおります。早速、「宮座式保存会」(仮称)を結成し永く保存継承するてだてを講ずる動きがでてい

ることも嬉しいことです。しかし、この継承にあたって心配なこと、注意しておかなければなら

きました。たわいのないことも、何か深い意味を含んでいそうなこともその間に優劣をつけることなくただひたすらに伝えてきたように思います。ところが、十余年ほどまえからこの神事を是非参観研究させてほしいというかたがたがあらわれ、少人数の方に公開することに致しました。その結果、この祭りには、男女両神の結婚、懐妊、御子神の誕生という再生の信仰がはっきりと伝えられて

いることが判明しました。一寒村から宿場へ、そして工業都市へと激しく変貌してきたこの川崎に、このような古い組織と信仰が生

々のお蔭です。そしてそのことが、このたびの選択に繋がったことは間違いないことです。

しかし同時に、わたしたちがこの祭りのなかで秘儀口伝として伝えてきた多くの所作や言い様のうち、再生の信仰に矛盾するもの、無関係なもの、その価値を認められなくな

たり、邪魔なもの、判断されたりして急速に語り継ぐ意欲が失われてい

るように思えることに寂しさというより、一種の危機感を感じざるを得ないことは、まことに皮肉なこと

です。秘儀口伝というものが、文化継承のうえに果たす役割についても真剣に考えながら、これからの宮座式の保存伝承にあたって行かなければならないと思っております。

(稲毛神社禰宜)

内山剣舞おどり保存会について

箭子清

去る二月十一日夜、踊りの練習をしたあと、保存会の皆さんに「このたび県選択無形民俗文化財の指定になつたが、率直に感想を聞かせてくれませんか」と聞いたところ、異口

同音に「後継者を育てることが大切ではないか」と言う返事がほとんどでした。たしかにそうですね。郷土芸能はおおむね素朴で地味だから、好んでこの踊りに加わろうという希望は少ないでしょう。一般的に民謡

や詩吟、俳句とかカラオケやダンスなどはよく参加されるでしょうけれども余程地域に協力しようという方々でない限り郷土芸能への参加は無

理のようです。でも、内山はこうしただ芸能が培われる土壌といえますか、そうした風土に恵まれているんでしよう。もう地域ぐるみで深い理解をよせてくださるので他所の地域に比べるとたいへん幸せに思っています。いつでしたか、今は亡き永田衛吉

先生は「僕の眼の黒いうちは県指定は無理じゃないかな。しかし、必ず指定されるヨ。」と、また、「類

似の踊りが全国に三か所あるから折を見て視察して参考にしなさい。」

と言われてきました。その後、昭和五十八年に奈良県吉野郡大塔村を訪れて、天誅おどりと篠原おどりを、また、昭和六十三年

には後継者全員で南足柄市教育委員

会のご指導のもとに長野県下伊那郡高森町の義士おどりをそれぞれ視察し、特に後者は一泊で交歓会をもち

非常に印象的でした。県当局をはじめ後藤淑先生にも当地へお越しいただき、内山のおどりは群舞で風流おどりの一種であり、

何があってもすぐ飛んでいくと相談相手をしてくださる南足柄市教育委員会の社会教育課の皆さんの温かいご指導はさることながら、いろいろな立場におられる方々にもいつもご心配をおかけし申し訳ありません。ここに深く感謝申しあげる次第です。他界された保存会のおばあさんが、本当にご苦労さまでした。そして明治の中ごろ地方巡業の際、内山へ滞在中子供たちや青年たちに踊り

の手ほどきをされた延(えん)ちゃん、(歌舞伎役者の市川延十郎)も喜んでくださるでしょう。(内山剣舞おどり保存会長)

協会行事報告

新規会員募集

○全国民俗芸能大会の見学会

民俗芸能を実際に行っている人、また民俗芸能に興味をお持ちの人等協会では、多くの方々の入会をお待ちしております。会員の皆様も勧誘に御協力下さい。なお、協会の事業としては、県民俗芸能大会の開催、各種芸能見学会、講演と映画の会、会報の発行等を予定しております。入会ご希望の方は、事務局にお問い合わせ下さい。

期 日 平成2年11月24日(土)
場 所 (財)日本青年館
概 要 文化庁企画で毎年催されており第四十回を数える大会。全国の民俗芸能を見るよい機会として、会員からの要望により見学会実施。参加者三十一名。開演前に解説書を配布し、自由見学形式で行った。

演目は大日堂舞楽(秋田県)、北須釜平鞆踊り(福島県)、天津司舞(山梨県)、祓川神楽(宮崎県)、佐文綾子踊り(香川県)の五演目。

第二十七回神奈川県民俗芸能大会は神奈川県教育委員会、小田原市教育委員会、当協会の主催で行われました。本号では大会特集をお届けします。お忙しい中を原稿をお寄せいただきました皆さまにお礼申し上げます。

○講演会

日 時 平成3年2月24日(日)
10時~12時
会 場 鎌倉市中央公民館
演 題 神奈川の仮面を中心とした有形民俗文化財について
講 師 後藤 淑氏
概 要 鎌倉市教育委員会の協力を得て実施。神奈川県内に残る仮面の資料価値などについて全国との比較あるいはアジア諸国との比較等をスライドを用いて行う講演会で、数々の貴重な資料が紹介された。

編集後記

また、今年度の国および県の新指定等無形民俗文化財について、その保存会からの感想など掲載しました。これら保存会がますます発展されることを期待しております。なお、編集部では会員の方々からの投稿をお待ちしていますので、日頃の活動状況などお気軽にお寄せください。

「かながわの民俗芸能」第53号
平成3年3月31日発行
編 集 横浜市中区日本大通り33
神奈川県教育庁社会教育部
文化財保護課内
神奈川県民俗芸能保存協会
事務局 ☎(201)一一一(代)
発行 神奈川県民俗芸能保存協会
印刷 港栄印刷株式会社
☎(333)八八一五(代)